

# 高齢者の靴に反射材を貼って交通事故を防止

～愛知県警察本部などと合同で交通安全啓発活動を実施～

日本損害保険協会中部支部(委員長:松田 謙二郎・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 執行役員)では、12月21日(木)に名古屋市千種区の覚王山日泰寺の境内において、愛知県警察本部、千種警察署、千種区役所、愛知県トラック協会と合同で、反射材の活用を呼びかける交通安全啓発活動を行いました。

愛知県内の交通事故による死者数は、12月13日現在で138人(前年同期比+8人)と大幅に増加しており、そのうち65歳以上の高齢者は66人で、全体の約半数を占めています。また、高齢者の歩行中死者の多くが、視認性が悪くなる夕暮れ時に事故にあっています。

そこで、覚王山日泰寺の縁日に訪れる高齢者に、反射材付きチラシを手渡し、希望者にはその場で靴などに反射材を貼り、事故への注意を呼びかけました。また、体験コーナーでは、車のライトが反射材に当たるとどのように見えるか体験してもらいました。靴に反射材を貼り終えた方からは、「車の運転手から自分が見えているのか心配だったがこれで安心できた。他の靴にも反射材を貼りたい。」などのコメントがありました。

当支部では、今後も愛知県警察本部等と連携して高齢者を中心とした交通事故防止に取り組んでいきます。



反射材を貼り付ける様子



反射材の効果を体験する様子

反射材普及啓発チラシ